

## マレーシアにおける SRI の動向

株式会社グッドバンカー  
リサーチチーム

世界景気が低迷する中で、アジアの堅調ぶりは数少ない明るい経済ニュースですが、アジア主要国のうち、2015 年の共同体構築をめざす ASEAN（東南諸国アジア連合）の重要メンバーであり、近年は国際的なイスラム金融の主要拠点として存在感を発揮しているマレーシアが先日、SRI 促進のための具体的な計画を発表しました。

マレーシアは政策的にサステナビリティ重視の方針を掲げており、同国の証券取引所であるブルサ・マレーシア（Bursa Malaysia）は上場企業向けの環境、職場、コミュニティ、市場の4分野における CSR の枠組みを公表し、上場企業に対する CSR 報告を要求しています。上場企業 100 社を対象としたブルサによる昨年の調査では、46%の企業が4分野の CSR 情報を自主的に開示しており、CSR 活動が国内企業に浸透しつつあることがうかがえます。そして今回の発表で、ブルサは金融市場からのサポートとして、2013 年に ESG 指数を設定し、マレーシア国内における SRI 資金の導入を促し、取り組みを進化させる計画です。

マレーシア経済について、結びつきの深い隣国シンガポールのビジネスマンたちに聞いてみると、イスラム金融市場の可能性や、労働力に対する懸念が比較的良好に語られます。マレーシアは国家戦略としてイスラム金融のグローバルセンターを整備・育成し、巨額のムスリムマネーを自国の経済成長にも柔軟に活用し発展を遂げてきました。ドバイショック以降はより多くのムスリムマネーが流入していることもあり、経済政策も開かれたものになってきています。また、イスラム金融はイスラム法に沿った倫理観・価値観を重視し社会的公正さを問うことから、SRI として分類されることもあります。こうした流れの中で、世界の多様な投資家ニーズを取り込み、市場の信頼を継続的に得ていくためにも、政府がサステナビリティに重点を置き、証券取引所が SRI にも取り組み始めるのは当然のことと言えるでしょう。イスラム金融の社会的な影響力や重要性は今後も高まっていくとみられ、欧米とは異なる特性を併せ持つ金融市場を育成するマレーシアの、SRI への取り組みは興味深いものがあります。

一方で、マレーシアは経済規模のわりに労働人口が少なく労働力不足が顕在化しています。外資による投資案件などでは、人材供給が制約条件となるケースも出ています。周辺新興国の台頭により、高付加価値型の産業構造への移行の必要性を背景に、労働力の質向上への課題など、ブルサの CSR の枠組みで言う「職場」の問題は、ファミリー・フレンドリーファンドと同様に、各企業ひいてはマレーシア経済の競争力に直結することから注目をしていきたいポイントです。